

処方解析演習/実践的薬学演習

責任者・コーディネーター	薬物代謝動態学講座 小澤 正吾 教授		
担当講座・学科(分野)	薬物代謝動態学講座、創剤学講座、臨床医化学講座、機能生化学講座		
対象学年	5	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	通期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

保険調剤薬局、病院薬剤部に勤務する薬剤師は「薬の専門家」である。処方せんを持って薬局を訪れた患者に対して、在宅医療の場や、ベッドサイドで、有効性、安全性を最大にする薬物療法の施行を第一義に考えることが求められている。処方せんをみた薬剤師は、処方内容から、患者の疾患、ならびにその重症度を推測するとともに、処方が適正であるかどうかを判断する資質を身につける必要がある。本科目では、5年次の小人数のグループ討論を含む演習科目（自由科目）とし、卒業研究に従事している時期の学生を対象とする。従って、年間で3つの時期に8コマずつ実施する。実務実習前の学生については、これまでに学んできた医療系科目の知識を動員し、実務実習を終えた学生の場合は、その知識と経験を生かし、処方せんをみて、必要に応じた疑義照会や、適正な服薬指導を施行する能力を養うための演習を行う。薬剤師は特にハイリスク薬を使用している患者さんの状態を把握し、定期的に薬局を来訪する患者につき、普段と変わった兆候がないかどうかを確認する必要がある。ひいては、想定される副作用を未然に防止、あるいは副作用を早期に発見し重症になることを防止することで薬物療法を支える職種である。本科目では、処方内容の吟味、ならびに医薬品情報の収集と評価を通じて、処方薬物の特徴を十分に理解する。その上で、患者の疾患の推定と重症度の評価を行い、薬物の適正使用を施行する能力を身につけることを基本理念とする。

・教育成果（アウトカム）

患者が持参した処方せんや可能であれば得られた患者情報を基に、グループ学習と発表・討論を通じて、疾患とその重症度を推定・評価することで、適正な薬物療法を考案できるようになる。

・到達目標（SBO）

1. 代表的な疾患の症候について理解し、概説できる。
2. 処方内容から、疾患名、および重症度を判断する。
3. 処方薬物について、警告、禁忌、薬物相互作用を調査し、説明できる。
4. 処方医薬品の製剤の意義と、医薬品の適正使用の関連について説明できる。
5. 処方内容のほかに考えられる適切な薬物療法を考案できる。

・ 講義日程

(矢) 東 SGL35、(矢) 東 SGL36、(矢) 東 SGL37

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
1	5/11	水	1	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	演習科目のねらい 処方薬の特性と疾患
1	5/18	水	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	処方監査： 薬名、組成、製剤の特徴（剤形）
1	5/25	水	1	臨床医化学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	処方監査の実践例：処方と随伴疾患の症候と重症度の評価
1	6/1	水	1	臨床医化学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	処方解析の実践 グループ課題学習 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
1	6/8	水	1	臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	処方解析の実践 グループ課題学習 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
1	6/15	水	1	臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	処方解析の実践 グループ課題学習 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
1	6/22	水	1	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の実践 発表と討論
1	6/29	水	1	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の実践 発表と討論
2	9/7	水	2	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	演習科目のねらい 処方薬の特性と疾患

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
2	9/14	水	2	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	処方監査： 薬名、組成、製剤の特徴（剤形）
2	9/21	水	2	臨床医化学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	処方監査の実践例：処方と随伴疾患の症候と重症度の評価
2	9/28	水	2	臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 臨床医化学講座	那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 大橋 一晶 准教授	処方解析の実践 グループ課題学習 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
2	10/5	水	2	臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	処方解析の実践 グループ課題学習 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
2	10/12	水	2	臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	処方解析の実践 グループ課題学習 （参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択）
2	10/19	水	2	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の実践 発表と討論
2	10/26	水	2	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の実践 発表と討論
3	1/11	水	1	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	演習科目のねらい 処方薬の特性と疾患
3	1/19	木	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	処方監査： 薬名、組成、製剤の特徴（剤形）
3	1/25	水	1	臨床医化学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	処方監査の実践例：処方と随伴疾患の症候と重症度の評価

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
3	2/1	水	1	臨床医化学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	処方解析の実践 グループ課題学習 (参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択)
3	2/8	水	1	臨床医化学講座 臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 小澤 正吾 教授	処方解析の実践 グループ課題学習 (参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択)
3	2/15	水	1	臨床医化学講座 薬物代謝動態学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	那谷 耕司 教授 小澤 正吾 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	処方解析の実践 グループ課題学習 (参考書・内科学症例図説の症例・処方から1つを選択)
3	2/22	水	1	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の実践 発表と討論
3	3/1	水	1	薬物代謝動態学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 機能生化学講座 臨床医化学講座	小澤 正吾 教授 佐塚 泰之 教授 那谷 耕司 教授 中西 真弓 教授 大橋 一晶 准教授	症例解析・処方解析の実践 発表と討論

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬物治療学 改訂第4版	吉尾 隆 他 編	南山堂 (定価 8,800 円+税)	2015
参	内科学症例図説	杉本 恒明 他 編	朝倉書店 (定価 18,000 円+税)	2009

・成績評価方法

情報検索・プレゼンテーション資料作成(20%)、発表(80%)で評価する。

・予習復習のポイント

各期3回目までは、各回の重要ポイントについて詳細に解説された点について復習する。4回目以降の調査と発表に備え、これまでいろいろな授業で勉強した疾患と薬物治療を振り返り、興味ある疾患を考えておくとよい。5回目からは各自が行った調査と作成した発表資料を振り返り、次の回での作業について予め考えて臨むとよい。

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間の目安は30分である。

治療戦略概論

責任者・コーディネーター	微生物薬品創薬学講座 西谷 直之 講師		
担当講座・学科(分野)	微生物薬品創薬学講座、薬剤治療学講座、創剤学講座、臨床薬剤学講座		
対象学年	5	区分・時間数	講義 10.5 時間
期間	前期		
単位数	0.5 単位		

・学習方針（講義概要等）

医師や歯科医師は根拠に基づく医療(Evidence-Based Medicine、EBM)を通じて診断・治療方針を決定する。これらを理解することは、調剤や服薬指導など薬剤師業務を遂行する上で重要であるとともに、チーム医療において医療従事者間の円滑な意思疎通に不可欠である。医療チーム構成員が、同じ情報を共有し、合意のもとに診療方針を立案・検討することにより、治療の質的向上や透明化が期待される。本講義では、代表的な疾患についての診断・治療方針を学ぶことで、薬学専門科目の知識と技能を実地臨床において活用できるようになることを目指す。

・教育成果（アウトカム）

重要疾患の標準療法を用いて薬学専門科目の知識を統合し、疾患ガイドラインを中心とした処方設計の基本概念を習得し、チーム医療の一翼を担う薬剤師となるための基盤を形成する。

・到達目標（SBO）

1. 診療ガイドラインの考え方について理解する。（☆）
2. 診療ガイドラインの科学的根拠について理解する。
3. 診療ガイドラインで用いられる用語を理解する。（☆）
4. 診療ガイドラインの利用方法について理解する。（☆）
5. 各種疾患に関する診療ガイドラインを列挙できる。（☆）
6. がん化学療法の代表的なレジメンを列挙できる。
7. がん化学療法の副作用対策における代表的な処方例を列挙できる。
8. がん疼痛の薬物療法における処方例を列挙できる。
9. 高血圧治療の代表的な処方例を列挙できる。
10. 糖尿病治療の代表的な処方例を列挙できる。
11. 心房細動の代表的な処方例を列挙できる。
12. 脳塞栓症の代表的な処方例を列挙できる。
13. 処方設計の過程を理解する。（☆）
14. 処方医薬品の処方意図を説明できる。（☆）
15. 適応外使用する医薬品について理解する。（☆）

・ 講義日程

(矢) 東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/12	火	5	微生物薬品創薬学講座	西谷 直之 講師	総論 診療ガイドライン 各論(1) がん化学療法ガイドラインと代表的なレジメン
4/13	水	5	微生物薬品創薬学講座	西谷 直之 講師	各論(2) がん化学療法ガイドラインと代表的なレジメン
4/15	金	5	臨床薬剤学講座	佐藤 淳也 講師	各論(3) がん化学療法の副作用対策
4/18	月	5	臨床薬剤学講座	佐藤 淳也 講師	各論(4) 麻薬を用いた疼痛緩和の実践的処方
4/20	水	5	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	各論(5) 生活習慣病の治療ガイドラインと代表的な処方-高血圧と糖尿病
4/22	金	5	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	各論(6) 生活習慣病の治療ガイドラインと代表的な処方-心房細動と脳塞栓症
4/25	月	5	創剤学講座	松浦 誠 講師	各論(7) 処方設計と処方意図、適応外使用する医薬品

・ 教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	乳癌診療ガイドライン(治療編) 2013年版	日本乳癌学会 編	金原出版株式会社 (定価 5,000 円)	2013
参	患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2012年版	日本乳癌学会 編	金原出版株式会社 (定価 2,300 円)	2012
参	よくわかる肺がん 日本肺癌学会公認	中西洋一 監修	西日本がん研究機構 (実費 1,000 円)	2012
参	大腸癌治療ガイドライン 2014年版	大腸癌研究会 編	金原出版株式会社 (定価 1,600 円)	2014
参	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年版	日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会 編	金原出版 (定価 2,800 円)	2010
参	制吐薬適正使用ガイドライン	日本癌治療学会 編	金原出版 (定価 2,200 円)	2010

・成績評価方法

定期試験（100%）で評価する。

・予習復習のポイント

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。
定期試験は、資料持ち込み可とする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（SONY, SVP11229EJB）	1	資料作成、講義

薬離学

責任者・コーディネーター	神経科学講座 駒野 宏人 教授		
担当講座・学科(分野)	神経科学講座、薬剤治療学講座、衛生化学講座		
対象学年	5	区分・時間数	講義 6時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5単位		

・学習方針（講義概要等）

医薬品は、標的とする疾病の治療や症状を緩和することに貢献する一方、副作用が問題となることが多い。したがって、最終的に医薬品を離れ健康を維持するセルフメディケーションの実践とその指導は、国民の健康増進にとってきわめて有益と思われる。本講義では、健康維持するためのセルフメディケーションの一つとして薬を使わない方法を学ぶことを目的とする。そのため、食生活を含む生活習慣を取り上げ、科学的あるいは疫学的に健康に影響を与えているものを整理し、薬を使わないセルフメディケーションの方法を考察する。また、特に高齢者で認められているポリファーマシーによる薬物有害事象を学び、それを避けるためのガイドラインを学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

健康維持するためのセルフメディケーションの一つとして薬を使わない方法を学ぶことにより、患者・生活者の健康維持、健康増進に貢献できる能力を身につける。

・到達目標（SBO）

- 1.疾患予防となる運動、ストレッチなどの身体活動や生活習慣を作用機構とともに概説できる。（☆）
- 2.健康に良い食品、健康を害する食品について作用機構とともに概説できる。（☆）
- 3.疫学的に疾患予防となることが示されている生活習慣について、理由とともに概説できる。（☆）
- 4.ポリファーマシーによる薬物有害事象とそれを避けるためのガイドラインを概説できる。（☆）

・講義日程

(矢) 東 207 2-E 講義室、(矢) 東 203 マルチメディア教室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/14	木	5	神経科学講座	駒野 宏人 教授	薬を使わないセルフメディケーションについての概要、及び生体が本来持っている健康に益する生体内物質を知り、それを産生する方法について学ぶ。

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/19	火	5	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食品がもつ機能性や健康に与える影響について基礎的知識を整理し、薬を使わないセルフメディケーションにどう役立てるか、考察する。
4/26	火	5	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	疫学からみた疾病予防となる生活習慣を学び、薬を使わないセルフメディケーションに役立つ生活習慣について考察する。
4/27	水	5	神経科学講座	駒野 宏人 教授	高齢者におけるポリファーマシーによる薬物有害事象を知り、それを避けるためのガイドラインを学ぶ。また、これまでの知識を整理し、岩手県健康寿命を延ばすに、薬剤師として何が出来るか、グループ討論・発表をする。

・成績評価方法

レポート（100%）で評価する。

・予習復習のポイント

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。駒野担当の講義では、グループワーク、二人ペアでのワークを実施する(2コマ)。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	コンピューターで作成した講義資料を講義室のプロジェクターで映写し、講義に使用する。

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野 James Hobbs 教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	演習 約2週間
期間	後期		
単位数	2単位		

・学習方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の教師による集中的な語学の授業を受ける。授業は午前中に行われ、日常会話に役立つ表現や文法事項をテーマに扱う。そして、英語を聴く訓練を通して話す能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。図書館、コンピューター室等の施設を利用することができ、いろいろな国々の人々と共にアクティビティに参加することもある。また、英語圏の国の文化、歴史に対する理解を深めるために、さまざまな名所旧跡を見学する。

外国での生活から得た経験を通して豊かな人間性を養い、また国籍にかかわらず相手の立場を理解し、臆することなく自己を表現することによって友好的な国際的人間関係を築くことが望ましい。

・教育成果（アウトカム）

教養教育に求められる豊かな人間性の涵養の一環として行う。

- 1.海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を学び、幅広い視点から人および物事を見ることによって自立の精神を養うとともに、能力・感性を培える。
- 2.英語研修によって日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のための会話能力開発ができる。 (ディプロマポリシー：2, 9)

・到達目標（SBO）

- 1.ホストファミリーと英語で意思の疎通ができる。(☆)
- 2.クラスメートと英語で意思の疎通ができる。(☆)
- 3.教室では間違いをおそれず積極的に発言できる。(☆)
- 4.日本人とだけで集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。(☆)

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

書籍名	著者名	発行所	発行年
登録済の教科書・参考書等はありません			

・成績評価方法

演習態度・レポート等を総合的に評価する。

・事前学修時間

研修先について参考書や図書館を利用して調べておくこと。これらの作業にはおよそ5時間以上を要する。

・特記事項・その他

研修先：英語圏の国（例：イギリス・アメリカ等）
期間：3月の予定
宿泊施設：ホームステイ

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			

被災地薬剤師から学び考える「地域におけるこれからの薬剤師のあり方」

責任者・コーディネーター	生体防御学講座 大橋 綾子 教授		
担当講座・学科(分野)	生体防御学講座、地域医療薬学科、臨床医化学講座、創剤学講座		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	講義 6時間
期間	後期		
単位数	0.5単位		

・学習方針（講義概要等）

東日本大震災(以下、大震災)被災地にある本学において、大震災における各地域での医療活動を知り、その経験を地域医療につなげる学びは極めて重要である。本科目では、「災害時から現在に至るまで、被災地の薬剤師は何を考え、どのような役割を果たしているのか」を、実際の薬剤師との交流を通じて学ぶ。更に、震災の経験を次世代に伝えたいという薬剤師の思いを受け止め、学んだことを教訓として「これからの薬剤師のあり方」を一人一人が考える機会とする。

・教育成果（アウトカム）

災害時から現在に至るまで、被災地の薬剤師は何を考え、どのように行動しているかを学ぶことにより、患者や生活者の健康に貢献する地域の薬剤師の役割や、行動を支える使命感を理解する。また、震災の経験を薬学生に伝えたいという薬剤師の思いを受け止めることで、次世代育成が薬剤師に求められる重要な資質の一つであることを意識する。更に、地域における薬剤師のあり方や方向性について自ら考えることで、今後身につけるべき資質や倫理観を明確にする。

・到達目標（SBO）

- 1.震災時並びに震災後の被災地における薬剤師の具体的な活動を列挙できる。(☆)
- 2.震災時並びに震災後に行われている医療活動を列挙できる。(☆)
- 3.生活者や患者の視点から、薬剤師の活動とその意義を捉えることができる。(☆)
- 4.地域医療に携わる薬剤師に求められる資質や倫理観について、自らの考えを述べるができる。(☆)
- 5.震災の経験を次世代に伝えたいという薬剤師の思いを受け止めることができる。(☆)

・講義日程

(矢) 東 205 ゼミナール室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
7/29	金	2	生体防御学講座 EDUCO いわて学び塾	大橋 綾子 教授 井上 和裕 氏	ガイダンス

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
7/29	金	3	岩手県薬剤師会	中田 義仁 非常勤講師	① 釜石における東日本大震災時の薬剤師の活動（釜石方式）について
7/29	金	4	創剤学講座 地域医療薬学科	松浦 誠 講師 高橋 寛 教授	② 東日本大震災における岩手医大医療支援チームに参加して ③グループ討議
9/16	金	5	生体防御学講座 創剤学講座 臨床医化学講座 地域医療薬学科	大橋 綾子 教授 松浦 誠 講師 那谷 耕司 教授 高橋 寛 教授	学習成果発表と意見交換

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ II-1 薬学総論I 薬剤師としての基本事項	日本薬学会編	東京化学同人 (定価 4,800 円)	2015
参	『いのちの砦』 釜石方式に 訊け 釜石医師会 医療継続 に捧げた医師たちの 93 日間	芦崎 治(著)	朝日新聞出版 (定価 1,620 円)	2015

・成績評価方法

感想文(20%)、発表とプロダクト(40%)、受講態度(40%)を総合的に判断する。

・予習復習のポイント

日程については、「平成 28 年度被災地薬剤師との交流バスツアー」（岩手県薬剤師会主催。7/30,31 または 8/6,7 で調整中）の実施に合わせる。「被災地薬剤師との交流バスツアー」に関しては、岩手県薬剤師会に感想文を提出する。
各講義に関する復習（振り返り）やプロダクト作成などの時間を要する。
講義日程の変更等は随時掲示する。

アンチドーピング

責任者・コーディネーター	創剤学講座 佐塚 泰之 教授		
担当講座・学科(分野)	創剤学講座		
対象学年	4, 5, 6	区分・時間数	講義 9 時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5 単位		

・ 学習方針（講義概要等）

スポーツは、トップアスリートだけでなく、娯楽として、また、健康維持や疾病予防の観点から幅広い年代で親しまれている。しかしながら、よい記録を追及するあまりに、くすりに頼るドーピングが問題となっている。これに対するアンチドーピングの活動は世界的に展開されており、様々な競技会で検査が行われている。しかしながら、スポーツ選手や一般の愛好家はくすりに関する知識が乏しく、特に本邦においては日常的に服用する医薬品によるうっかりドーピングが起きているのが現状である。そこで、くすりの専門家である薬剤師が正確な情報をスポーツ選手に与える必要があり、日本アンチドーピング機構は、薬剤師を対象に公認スポーツファーマシストを認定している。本講義では、薬剤師を目指す薬学部生の立場からスポーツと薬の関わりや知識を学ぶとともに考える。

・ 教育成果（アウトカム）

スポーツ選手の医薬品に対する認識と現状、スポーツ薬理学への理解、ドーピングコントロールの現場を知ること薬学生の立場からスポーツファーマシストに対する理解を深め、臨床現場にとどまらない薬剤師の役割が認識できる。

・ 到達目標（SBO）

1. スポーツファーマシストの存在と意義を理解できる。（☆）
2. スポーツ薬理学の意義を説明できる。（☆）
3. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。（☆）
4. スポーツファーマシストとしての活動に関し討議できる。（☆）

・ 講義日程

(矢) 東 207 2-E 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/9	月	5	創 剤 学 講 座	佐塚 泰之 教授	スポーツファーマシストとは
5/16	月	5	創 剤 学 講 座	杉山 育美 助教	スポーツ薬理学
5/23	月	5	創 剤 学 講 座	本田 昭二 非常勤講師	ドーピングコントロール
5/30	月	5	創 剤 学 講 座	佐藤 大峰 非常勤講師 川井 由貴 非常勤講師	スポーツファーマシストになったきっかけと活動

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/6	月	5	創剤学講座	佐塚 泰之 教授 杉山 育美 助教	現場体験 シャペロンとして活動
6/13	月	5	創剤学講座	佐塚 泰之 教授 杉山 育美 助教	PBL (スポーツファーマシストとして何が出来るか、必要か) 服薬指導シミュレーション

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	アンチ・ドーピングを通して考える ースポーツのフェアとは何かー	(公財)日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)監修	(公財)日本アンチ・ドーピング機構	2013

・成績評価方法

聴講態度 (40%)、レポート (60%) より総合的に評価する。

・予習復習のポイント

教科書・参考図書などは指定しない。講義の際に資料を配布する。
授業に対する事前学修 (予習・復習) の時間は最低 30 分を要する。